



学年末における小学校算数科の学習指導

～知識・技能の確実な習得に向けて～

©岡山県「ももっち」

今号では、年度末における小学校算数の学習指導について、児童が知識・技能を確実に習得するためには、**系統性を意識した学年をまたいだ学び直し**の取組例を紹介します。

岡山県学力・学習状況調査結果から

小3から学年が上がるにつれて標準スコアが下降しているが、中1（小6の学習内容）では標準スコアが50を上回っている。

学年末に、小学校で学んだ内容を**系統性を意識して学年を越えて学び直した**から、理解が深まったと考えられます。

R 8県調査の結果（算数・数学）

小3	小4	小5	中1
49.9	49.7	48.5	50.2

※ 数値は標準スコア
(全国の平均正答率を50とした時の換算値)

教科書巻末にあるまとめの問題を6年生と1～5年生で比較すると、1～5年生の教科書では、当該学年の内容の問題が中心であるのに対して、6年生の教科書では、「数と計算」「図形」などの内容別に、**学年をまたいだ**問題が出題されています。



このことから1～5学年でも当該学年の内容を学び直す際に、**関連する下学年の内容を学び直す**ことで、知識・技能の確実な習得を図ることができます。

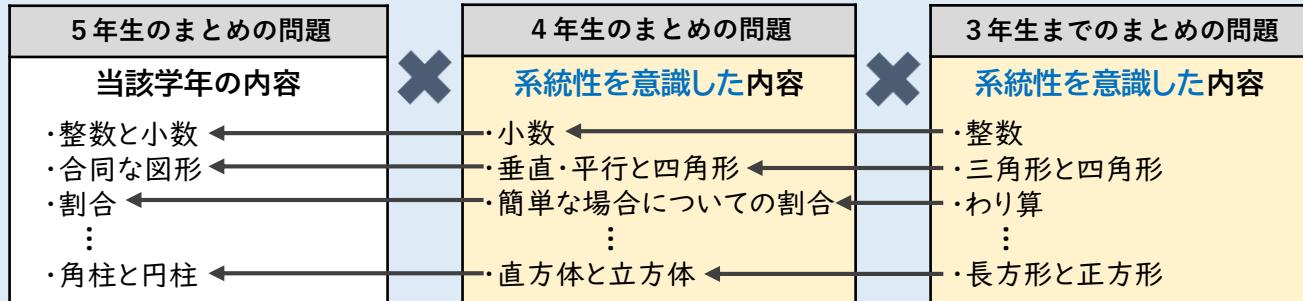
6年生のまとめの問題

当該学年の内容
+
系統性を意識した内容

1～5年生のまとめの問題

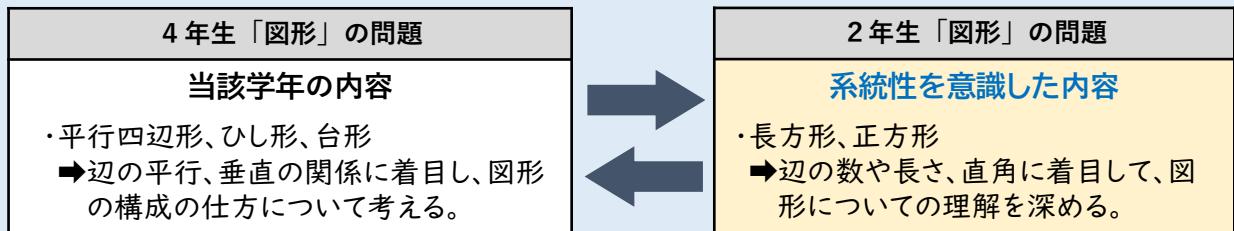
当該学年の
内容が中心

取組例① 現学年の内容に関連する下学年の問題を準備する（5年生の場合）



児童が必要に応じて「5年生のまとめの問題」と**下学年の教科書の「各学年のまとめの問題」**を組み合わせて学び直すことで、**系統性を意識**することができますね。

取組例② 下学年の内容を当該学年の視点から学び直す機会を設定する（4年生「図形」の場合）



4年生「図形」の内容と同時に**2年生「図形」**で学習した正方形、長方形を当該学年の視点から捉え直すことで、児童が図形についての**知識をより深め**ることが期待されます。

学年をまたいだ学び直しを行うことで、**系統性を意識し、知識・技能の確実な習得**が期待できます。当該学年で学ぶ内容の復習にとどまらず、系統性を意識した下学年で学ぶ内容の復習ができるようにし、学年末の指導の充実を図りましょう。

